

# 平成27年度 まちづくり推進部 平鹿地域局 方針書

まちづくり推進部 平鹿地域局長 高橋 嘉

## 1. 平鹿地域局の使命（役割）

日常的な行政サービスの円滑化と積極的な住民交流を促し、多様化する地域ニーズに的確に対応しながら住民満足度の向上に努める。また、地域における共助意識の高揚と具体的な仕組みづくりを進め、地域と行政との協働を模索しながら、お互いに協力し合い安心して暮らせる地域社会を実現していく。

## 2. 平成27年度における課題（前年度の振り返りから）

地域住民の日常生活の安全・安心を確立するためには、主体となるべき集落自治会組織の体制強化が喫緊の課題である。そのためにも協働のまちづくり会議を継続・発展させ、地域内の共通理解の徹底を図らなければならない。そうすることで、地域全体でまちづくりの方向性を共有することとなり、お互いに協力・連携して活力と魅力ある地域づくりに取り組むことができる。

## 3. 平成27年度の『スローガン』

**地域協働を推進し、活力と魅力あるまちづくりに取り組もう!!**

## 4. 年度目標となる方針（目標）

- （1）元気の出る地域づくり事業の円滑化と地域支え合い体制の具体化に努め、安全で安心な生活を維持し地域の活力と魅力を増加させる。
- （2）地域資源を有効活用した産業・観光振興を図りながら次世代育成に努めるとともに、地場産品の情報発信と販路の拡大を目指す。
- （3）地域コミュニティの活性化と健康増進活動の普及拡大により住民の交流と協働意識を高め、健康長寿のための生きがいづくりを推進する。

## 5. 重点取組項目

(1)	項目	元気の出る地域づくり事業の円滑化と地域支え合い体制の具体化に努め、安全で安心な生活を維持し地域の活力と魅力を増加させる。
	取組内容	・地域づくり協議会の元気の出る地域づくり事業の円滑な実施を支援し、地域づくり計画の確実な実践と地域活力の向上を図る ・地域における共助意識の浸透と拡大に努め、集落自治会を中心に地域全体できめ細かに支え合う仕組みづくりの具体化を進める
(2)	項目	地域資源を有効活用した産業・観光振興を図りながら次世代育成に努めるとともに、地場産品の情報発信と販路の拡大を目指す。
	取組内容	・平鹿特有の伝統文化や観光・人材など価値ある地域資源の掘り起こしと磨き上げに取り組み、住民共通の価値観としての認識を高める ・地場産農産物や特産品をオリジナルブランドとして情報発信に努め、全国的な販路を開拓しながら産業全般の活性化を図る
(3)	項目	地域コミュニティの活性化と健康増進活動の普及拡大により住民の交流と協働意識を高め、健康長寿のための生きがいづくりを推進する。
	取組内容	・日常的なコミュニティ活動の支援に努めながら協働意識の浸透を図り、住民交流の機会を増やすことで地域内の共助の機運を醸成する ・地域住民が健康意識を共有し連携しながら健康長寿のまちづくりを進めるため、保健活動や健康啓発・相談活動を積極的に展開する

## 6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況 【現状】

(1)元気の出る地域づくり事業は、すべての事業の検証を図りつつ効果的な推進に努めている。地域の支え合い体制の具体化については、対象集落との話し合いは済ませたが具体的な展開に苦慮している。一方で、地域の共通課題である交通死亡事故ゼロに向けた地域全体での意識の醸成・共有化により8月16日にゼロ1000日を達成することができた。

(2)地域の一大イベントである「あやめまつり」に向けて地産弁当の開発やJR秋田支社との連携などで事業の付加価値を高め、情報発信と交流人口の拡大に努めた。また、伝統的な藍染技術による浅舞絞りは県内外から評価が高く問い合わせが増えている。これらの需要に対応するため講習会や展示会を開催し、技術の継承と後継者育成に努めている。

(3)地域の連帯感や共同意識を醸成してうえで基本となるべきは住民の健康であり、高齢化が進む中においては必須の要件である。日頃から地域の健康課題である高血圧や脳卒中対策として健康相談や健康教育などの啓発活動を集落を中心に実施している。さらに今年度から中規模健康の駅を浅舞地区に開設し、住民交流を図りながら健康啓発と健康指導を強化している。

## 7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1)高齢化や人口減少が加速する中で地域の支え合いの仕組みづくりは喫緊の課題であり、地域事情に即した支え合いの具体的な取り組みが急がれる。元気の出る地域づくり事業の推進と合わせ、この2か年の実績を踏まえ平成28年度事業の組み直しも視野に入れながら検討していかなければならない。

(2)地域資源の情報発信や販売促進を図るため引き続き外部アドバイザーの助言をいただきながら、効果的な取り組みを進めて行かなければならない。特に地場製品の販売PR活動のため、首都圏のスーパーサカガミとの連携協定に基づく交流事業を推進し、地元生産者の販売意欲向上と地域活性化につなげたい。

(3)中規模健康の駅の新設により地域住民の健康意識が少しずつ向上しているが、事業メニューに工夫を加えて若年層へのアプローチが当面の課題である。このため、いきいきサロンとの事業連携を模索しながら、より広範な住民参加による健康増進活動を展開し、健康長寿の意識の拡大を図りたい。

## 8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1)今年度の協働のまちづくり会議の具体的な活動として「ゴミの新分別への円滑な移行」を掲げて取り組んできた。この間進めてきた地域の支え合いの仕組みづくりの一環としてタイムリーなテーマと捉えたものの、円滑な移行作業だけが主体となってしまう、支え合う意識の醸成には至らない部分があった。これからの支え合いの気運となる新たな共通の目標設定に取り組まなければならない。

(2)市の包括連携協定に基づくスーパーサカガミとの交流事業は、若手農業経営者の生産意欲と販路開拓に大きく寄与したものと分析している。元気の出る地域づくり事業の中で、農産品に限らず地場産品など特色ある地域資源の情報発信や販売促進の効果的な後押しにつなげていくことで、地域の魅力や活力の向上が期待できる。

(3)健康長寿のまちづくりのため健康増進活動の新たなメニューとしてゆとり館で実施した中規模健康の駅事業は、認知症予防対策の期待もあって参加者が多く非常に好評であった。今年度行った健康体操や脳トレのほか、次年度においては、タッチパネルなどの活用も考えなければならない。ただ、65歳から80代が主体であるため、それ以下の年代の参加拡大が課題となる。